シテ・レトル
CITÉ LETTRE
2022 September 9
Vol.86

In order to promote the creation of an attractive Osaka, public and private spheres must link up and work together. The CITÉ Salon is an organization created as a forum for such collaboration. It was set up in January 1992 as membership organization with the slogan "Vibrant and Attractive Town Building towards a New Era"




## Leader's Interview

大阪市高速電気軌道株式会社 代表取締役社長

**河井 英明 氏**

# 都市型MaaS構想「e METRO」で交通を核に多様な生活サービスを繋ぎ生活まちづくり企業へ

総務委員会
CITÉさろん30周年記念シンポジウム「都市・大阪の未来をみつめる」

研究活動委員会
テーマフォーラム／自主活動プログラム／圏域研究会 第1回圏域研究セミナー

分科会活動委員会
大阪都市格研究会／2020-2021度WS報告会／2022-2023WS新座長紹介

総務委員会
国内視察研修会／第1回親睦ゴルフコンペ

新入会企業のご紹介
株式会社関電工／三和電気土木工事株式会社／日立造船株式会社

新役員就任のご挨拶






# 都市型MaaS構想「e METRO」で交通を核に多様な生活サービスを繋ぎ生活まちづくり企業へ

EXPO 2025 大阪·関西万博の開催まで1000日を切って、さまざまなインフラの整備活動が本格化する中、生活をより豊かにする近未来の交通インフラの変革に期待が寄せられています。今回のリーダーズインタビューは、大阪市内の地下鉄網を建設·保有·管理され、また民営化以後、さまざまな改革をされ、多様な事業展開を進めておられる、大阪市高速電気軌道株式会社（Osaka Metro）の河井社長様にご登場いただきます。
大阪の都市骨格として重要インフラである交通網の中でも、特に重要な役割を果たされているOsaka Metroの事業、今後の事業展開、また大阪·関西のまちづくりに対する期待や思いなどについてお伺いしました。

## 河井 英明 氏　大阪市高速電気軌道株式会社 代表取締役社長

Mr. Hideaki Kawai

生　年　月　日　1954年9月1日
1977年　3月　明治大学 卒業
1986年　6月　シカゴ大学 経営大学院 卒業

1977年　4月　松下電器産業株式会社（現·パナソニック ホールディングス株式会社）入社
2014年　4月　同社 代表取締役専務
2018年　4月　大阪市高速電気軌道株式会社 代表取締役社長【現任】

松下電器産業では、同社が大型買収したMCA社（ユニバーサル映画等）に出向するなど、10数年間の米国勤務の中で、先進的な経営管理手法を実践の中から学び、異なる企業文化の中で現在の礎となる価値観を得る。日本への帰国後も一貫して、経理財務畑を歩み、経営企画にも携わったのちCFOに就任し、グローバルな経営管理を推進。
パナソニック退職後は、Osaka Metroの民営化に伴い、全くの門外漢である鉄道業界の代表取締役社長に就任し、民営化の真のメリットを最大限に発揮すべく奮闘中。「挑戦し続ける」ことをモットーに、64歳を迎えて人生初のフルマラソンに出場、完走を果たした。

**◉「素直な心」を意識して物事を見聞きする**

神田：最初に、河井社長様の自己紹介を兼ねまして、ご自身の人となりについてお話しいただけたらと思います。

河井：私の性格を一言で表すなら「自ら企画して挑戦するのが好き」ということでしょうか。そして、「剛毅朴訥」という論語の言葉を大切にしています。これは、「意志が強いとともに飾り気がない」という意味があって、これが徳を積む基本にあるのかな、と思っています。また、これは松下幸之助氏の言葉なのですが「素直な心」ということも意識しています。とても単純な言葉ですが、年を重ねるごとにこの言葉の重みを実感しています。これまでの経験が邪魔をして、物事を素直に見聞きできなくなるんですね。自分の主観が強く出てしまう…。そういったことへの戒めとして、この言葉も大切にしています。

**◉大阪の発展やお客様満足度の向上に寄与**

菅沼：関西の多くの関係者の期待を受けて民営化されたことについて、その意義や役割、関西のまちへのインパクト·効果について、お話をお聞かせ頂ければと思います。

河井：地下鉄事業は、初期投資が莫大に掛かり、民間企業が参入しづらいことから、行政主導での整備が進められました。その役割を担っていたのが弊社の前身である大阪市交通局でした。
大阪の地下鉄が大きく発展したのは1970年大阪万博の開催が決定した1960年代の10年弱。あちらこちらで延伸工事が進み、今の地下鉄網の原型ができました。
当時の技術等を踏まえると、「この期間で、よくこれだけの工事を完成させたものだ」と感心します。このように、大きなことを成す時の一致団結したエネルギーは凄まじいものがありますね。
しかし、近年では、交通ネットワークの整備計画が一段落したこともあり、交通局は管理·運営を中心に担う組織になっていました。民営化直前には数度にわたる経営改善計画の実施によって、2010年には累積欠損金を解消し、自立的な運営が可能な事業体となっていました。
しかし、この頃、交通局の運営を取り巻く環境も変化しはじめ、少子高齢化による人口減少がはじまりました。特に、交通の利用者数と強い相関関係にある関西地域の生産年齢人口は2010年から2045年にかけて、約33%という大幅な減少が予測され、長期的な経営環境はかなり厳しくなると言わざるを得ない状況です。そのような中、将来にわたって事業を継続するためには、運賃収入以外の収益を増やす必要があります。
更には、大阪市が財政難に苦しむ中、交通局に投入されていた年間100億円の補助金を今後も維持することは難しく、行政への財政依存から脱却する必要がありました。
このような状況を踏まえて、大阪市会では、民営化の議論が本格的にはじまり、何年もの議論を経て、2018年4月、「自らの経営責任の下で持続可能な企業体になること、自由度の高い経営で多様な事業展開によって成長·発展すること、大阪市の財政依存から脱却し、むしろ、納税·配当によって財政貢献できる企業体になること」を目的として民営化を果たしました。
民営化の目的は、前述のとおり、主には、「交通事業を持続可能なものにすることや大阪市への財政貢献」なのですが、「発展の過程で成し遂げられる事業の多角化などを通した交通事業との相乗効果の発揮、複合的なサービスの提供によるお客様の利便性向上を図ることができるようになったこと」も、民営化の大きな意義であると考えています。
民営化には、このように様々な意義がありますが、他にも「今まで以上にお客様のことを考え、満足度向上を強く意識して仕事をするようになったこと」や、「株式会社として自主自立の経営を実践していくことから“自分で考え、自分で実践し、結果責任を負う”という構図の中で、仕事に対する姿勢も変わってきた」というような効果もありました。
民営化前のアンケート調査では、「無機質である」とか「親しみやすさがない」といった評価が上位を占めていましたが、多くの取組みを行う中、印象も変わってきていると実感しています。さらに、お金を賢く使うというコスト意識も高まってきています。
このように色々なことができるようになったので、大阪の発展のために前向きに取り組むという、やり甲斐や働き甲斐も向上しているように思います。そして、「今まで以上に、大阪の発展やお客様満足度の向上に寄与しているのではないか」と感じています。

**◉伝統を守ることと進化しつづけること**

河井：社内は、安全に着実に鉄道を走らせる意識が高く、強い使命感もあります。その一方で、同じ考え方の集団を好み、異論を嫌い、決められたことを決められた通りにやることを最優先する傾向もあります。これは、安全·安心な運行に徹するためであり、このこと自体は極めて重要であり、大変尊いのですが、事なかれ主義や前例踏襲型に陥る危険性も持っています。
会社や事業を発展させ、より良い経営をするためには、今まで通りではなく、格段の進化·発展が必須ですが、いわゆる変革とは、過去を否定すること、今までやってきたことを否定するように感じるため、大きな葛藤などが発生することもあります。そのような中で、「伝統を守ることと進化しつづけること」をうまく調和·融合させることに注力しています。
そのためにも、交通の管理·運営のために日常業務に特化していた社員の目線を上げ、会社として中長期の目線で「ありたい姿」を実現するための業務となるように具体的な活動計画、いわゆる中期経営計画を策定しています。この策定は、現状からの努力の積み上げという発想ではなく、「ありたい姿·なりたい姿から逆算して、やるべきことを段階的にやっていく発想」で行っています。さらに、事業計画が進化·発展している証として、毎年、計画を振り返り、内容を更新しています。
また、社内に事業ノウハウや経験者が少ないため、社外との連携や外部人材の採用などの手を尽くしています。ちなみに、外部人材は、新規事業分野を中心に、現在100名を超えています。
他にも、役職者一人ひとりの達成目標を定めたジョブ·ディスクリプションの作成や若手社員を対象にした社内の経営塾を実施するなど、さまざまな策を講じています。
大きな目標を達成するには、苦難に屈しない高い志や強い意志が必要です。民営化を成功させて、大阪の発展に貢献したいというあふれる熱量を持って、交通に革命を起こす決意で、「諦めずに粘り強くチャレンジし続ければ、必ず実を結ぶ」と信じ、あらゆる手を尽くしていきたいと考えています。



**◉交通を核にした生活まちづくり企業へ**

神田：関西・大阪の鉄道ネットワークにおいての御社Osaka Metroの位置づけ・役割について、また都市の経営といった面から、その役割をお聞かせいただければと思います。

河井：弊社は、1903年に市電が開業して以降、現在に至るまで大阪市内を中心にした鉄道・バスの交通ネットワークの形成によって大阪のまちづくりに寄与するとともに、地域住民やお客様のニーズの変化に対応しながら、大阪市内の移動の中心的な役割を担ってきました。そのような中、“できることはまだまだある”、“やらなくてはならないことが多くある”と考えています。



現在でも、大都市である大阪において、「駅が近くになく、バス路線も運行頻度の面で充分ではない」などといった問題を抱える交通不便地域が多く存在しています。そして、今後の少子高齢化の進展により、交通不便地域はさらに増加する可能性があります。

私は、「まちは意思を持って生きている」ように感じています。成長のサイクルもあります。自然な成長や発展もあれば、意思を持った成長や発展もあるように思うのです。

人は活気ある所、便利な所に集まるし、住むものです。その中で、交通インフラは血管のようなもので、生き生きした活力あふれるまちにするためには、交通、つまり移動手段が圧倒的に便利になることが必須であると思っています。大阪全体の発展のためには、今後さらに、「大阪のどこにいても一定の便利な移動サービスを提供できるようにしていきたい。そして、まちの良さを引き出したい」、これが弊社の果たすべき社会的使命であると考えています。

さらに、より良いまちづくりには、交通が交通として完結するのではなく、日常の社会生活サービスと密接につながることが重要であると思っています。ゆえに、これからの住みやすいまちには、「全てのサービスができるだけつながること」が基本的な要諦であると感じています。

また、2018年の民営化後、弊社の存在意義を再検討する中で、企業理念をいかに具現化するかを真剣に考えました。そして、『最高の安全・安心を追求し、誠実さとチャレンジ精神をもって、大阪から元気を創りつづける』、『交通を核にした生活まちづくり企業へ変革していく』という企業理念を実践したいと思っています。そのためには、単に人々の移動の脚としての「交通インフラ」、生活になくてはならない存在としての「社会生活インフラ」の役割だけでなく、文化や国籍に関係なく、「多様性」のある人と人、人とモノの出会いを活発に創出し、大阪が新たな価値を生み出す場となる「活力インフラ」としての役割を担いたいと考えています。この役割を果たすことができれば、大阪がより独自性を持った、特色ある魅力的な“まち”に発展することに貢献できるだろう、と考えています。

**◉「安全・安心・快適・便利」を担保**

菅沼：御社・Osaka Metroの企業理念では、人の命を預かる交通事業者として、「安全」を最重要理念として掲げ、大阪のまちづくりとともに歩む、「ひとにやさしい交通機関」の精神のもと、取り組むと謳っておられます。ここ数年、さまざまな取り組みを発表され、実施されていますが、実際どのような取り組みをされているのか、また、今後の交通機関の在り方についてお考えを教えてください。

河井：大阪を訪れる不特定多数の方々が日常的に利用する公共交通機関として、「ひとにやさしい交通機関」を実現するためには、「安全・安心・快適・便利」の4つの要素が担保されていることが絶対条件であると考えています。

「安全・安心」という観点では、2025年度に全駅設置完了を目指したホーム柵の整備、大規模災害への備え、既に完了している全駅でのホームから地上までのワンルート整備に加えて、EV増設による複数ルートの確保、防犯カメラ設置によるセキュリティ対策などを進めています。

また、「快適」という観点では、駅の大規模なリニューアルや新型車両の導入、顔認証改札機の導入などを積極的に進めています。

「便利」という観点からは、駅ナカや駅チカでのサービス向上、駅および駅周辺の開発などを進めています。

これらの取り組みは決して手を緩めることなく着実に実行していきたいと考えています。その一方で、交通機関を取り巻く経営環境は厳しさを増しています。新型コロナウイルス感染拡大による利用者の減少や移動を前提としない生活スタイルが定着しつつあることに加え、今後、人口減少に伴い、日々の利用者については、さらなる減少傾向が続くことが見込まれています。

「安全・安心・快適・便利」な交通機関を維持、発展させていくためにも、交通と他のサービスを掛け合わせた「新たなニーズを創出する収益モデルの確立」が求められています。

そのためには、「既存事業の絶え間ない進化」だけではなく、「競争優位を活かした新たな事業への挑戦」を組み合わせた両面から、弊社を発展させる事業活動を進めなくてはなりません。

**◉「都市型MaaS」で生活サービスを繋ぐ**

河井：具体的には、「⓪デジタル化の推進（DX）」を土台とした「①既存交通の改善・進化」、「②移動手段の統合」、「③生活サービスの拡充」、「④Webサービスの提供」という5層が重なり合った形での事業の発展。



つまり、交通を核として、あらゆるサービスが繋がりあう「都市型MaaS」の整備を目指しています。

何度も熟考した結果、この取り組みこそが、『最高の安全・安心を追求し、誠実さとチャレンジ精神を持って、大阪から元気を創りつづける』、『交通を核にした生活まちづくり企業へ変革していく』という企業理念を具現化するものと考えています。

「①既存交通の改善・進化」では、前半で述べたとおり、最新技術でストレスフリーな移動を追求します。

「②移動手段の統合」では、自由自在な移動のパーソナル化を目指し、多様な交通をシームレスに繋げることを目指します。レンタサイクルなどの小型モビリティを揃え、ラストワンマイルを含めた、出発地から目的地までのすべての移動を一つの交通手段としてシームレスに繋ぎます。中でも目玉となるのが、2021年3月から、大阪市内の一部地域で社会実験を開始したオンデマンドバスです。従来の定時、定路線の路線バスとは異なり、好きな時に呼べて、乗降場所間の移動も効率的なルートで結ぶだけでなく、乗降場所も一般のバス停よりも約４倍細かなメッシュで配置します。これは、従来の「来て頂いてご利用頂く」という、いわば受け身の交通から、「お客様のできるだけ近くにまでお迎えに行き、できるだけ目的地の近くにまでお運びする」という能動的な交通への変革です。



利用者の利便性を向上させながら、より効率的な運行ができるモビリティとして期待していて、今後も実験エリアを順次拡大していく予定です。さらに、オンデマンドバスを使った貨客混載による配達事業のように、「移動サービスと生活サービス」を組み合わせることで、より効率性を高め、確実に採算の取れる事業活動としていきたいとも考えています。

「③生活サービスの拡充」では、フィジカル空間での生活・都市機能の整備を目指しています。交通に繋がるフィジカル空間の開発として、地下鉄・バス・オンデマンドバスの結節点の機能を持つ「乗継ハブ」を設置し、移動の途中で食事や買い物などが済ませられる機能を整備していくことを構想しています。また、主に市内の108か所に点在するOsaka Metroの駅は、それぞれが単独で、総合的に弊社のサービス拠点となり得る重要な存在であると考えていて、駅および駅周辺の開発ですべての生活に関するサービスが移動の途中で完結するような事業展開をしていきたいと考えています。

「④Webサービスの提供」では、サイバー空間での生活を豊かにするサービスの提供を目指しています。例えば、飲食やエンタメ情報をプッシュ通知して、お客様の生活をより豊かにするほか、ECショップを開設し、弊社を利用して移動する途上で、購入した物を受け取れるサービスの展開などを想定しています。

以上のように、従来の事業の延長では事業の存続そのものが危ぶまれる経営環境下においても、「交通インフラ」、「社会生活インフラ」としての社会的使命を果たすべく、交通を核として有機的に結びついた総合的サービスの提供によって、全体最適のもとに各事業の成長性、収益性を高めた事業活動をすることが、今後の交通機関の目指すべき姿であると考えています。

**◉大阪の発展が広く関西全体の発展に寄与**

神田：都市の活性化にににおいて、都市交通事業者に求められることは変化してきていると思います。関西全体の発展に向け、御社Osaka Metroから、大阪・関西へのインパクト、展開などについて、お考えをお聞かせください。

河井：大規模な「都市型MaaS構想」は世界に類がないと思っています。これを活用して、私たちは交通に革命を起こし、大阪の今後の飛躍的な発展に少しでも多く貢献したいと考えています。

「都市型MaaS構想」実現によって、大阪市内から、交通不便地域と呼ばれるエリアをなくすことができれば、一部地域への人口の極端な集中と人口の著しい減少のいずれをも緩和することができ、大阪をくまなく発展させることができるのではないか、と考えています。駅周辺ばかりが便利になり、郊外では、移動



需要の低下によってバスの利用率が低下するといった歪な形での都市発展は、持続可能であるとは言えず、効率も悪いと思っています。「都市型MaaS構想」は、スマートシティやスーパーシティ構想とも密接に関係していて、関西の中心都市である大阪全体が、幅広い面として、より良い形で発展すれば、関西全体の発展にも寄与できるのではないでしょうか。

**◉着実な鉄道運行と豊かな日常生活づくり**

菅沼：私たちCITÉさろんでは、様々なテーマで調査・研究をしていますが、大阪のまちを考えるとき、地下鉄網をはじめ交通ネットワークは大変重要なインフラであると改めて認識しています。大阪の価値向上のための取り組み等について、これまでのご経験から、お聞かせ願えると幸いです。

河井：これまでも述べてきたとおり、単なる事業の多角化ではなく、交通事業との有機的な繋がりのある事業の多角化、交通の価値を高める多角化によって、交通ネットワークを維持し、発展させ、大阪での暮らしを圧倒的に便利にしていきたいと思っています。その結果として、都市の魅力度向上に貢献していければ何よりです。これこそが、鉄道の日々の着実な運行という使命を継承しつつ、交通と他のサービスを掛け合わせて日常生活を圧倒的に便利にしていくという民営化の趣旨に沿っているのではないでしょうか。

ここで大事なことは、このような「都市型MaaS構想」は多くの企業と密接に連携しないと達成できないということです。私たちの力だけでは不可能ですし、お客様の真の利便性を高めることにもならない。「大阪全体の発展のために私たちは何をやるべきか」を真剣に考えて、全力で取り組んでいく所存です。この根底にあるのは、CSV(Creating Shared Value)の考え方です。私たちは、単に短期的な利益を追求するのではなく、社会的使命を果たすことで、経済的な成長も達成する企業になりたい。社会のための事業活動に専念すれば、自ずと利益が付いてくると考えているのです。

日々、弊社を利用してくださるお客様のご意見に徹底的に寄り添いながら、真にお客様が求めるサービスを追求し、提供することを前提とした事業活動を進めていきたいものです。

**◉「構想を生み出す場」としての機能に期待**

菅沼：最後に、今後の大阪・関西の目指すべき方向性について、CITÉさろんへのご意見をお聞かせ願えればと思っております。

河井：CITÉさろんは設立30周年を迎えられ、その間に培われた大きな財産として“会員間の繋がり”があると感じています。弊社の掲げる「都市型MaaS構想」も同様なのですが、所属する各会員、企業様が単独で成し遂げられることには限りがあると思われます。大阪・関西を発展させるには大きな構想が必要であり、他企業、異業種間の協業がとても大事になってきます。CITÉさろんが、それらの交流をより活発にし、“構想を生み出す場”としての役割を是非担って頂き、所属企業間の連携がより進むよう、引き続き、ご尽力頂かれることを期待しています。

菅沼・神田：本日は、お忙しい中、お時間をいただき、また、貴重なお話を頂戴し、本当にありがとうございました。



インタビュアー
**菅沼 健太郎 氏**
三菱地所株式会社・CITÉさろん広報委員会委員
**神田 彩帆 氏**
阪急阪神不動産株式会社・CITÉさろんWS・ソト研メンバー

取材場所　大阪市高速電気軌道株式会社 本社
取 材 日　2022年7月22日（金）11:00～12:00

※インタビューは、新型コロナウイルス感染拡大に関して、十分に対応した上で、マスクを外して実施しています。ご了承ください。

# CITÉさろん30周年記念シンポジウム「都市・大阪の未来をみつめる」

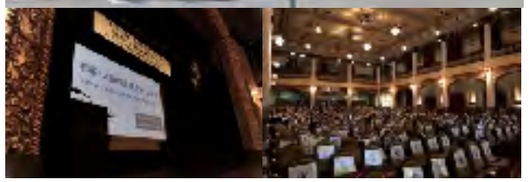
## ～アーバンサイエンスが拓く次世代のまちづくり～

CITÉさろんは「新しい時代に向けた活力と魅力あるまちづくりの推進」をスローガンに1992年1月に民間企業等で設立、本年2022年に設立30周年を迎えました。本シンポジウムは設立30周年記念事業の取り組みの一つとして開催され、CITÉさろん会員各社のメンバーの他、これまでCITÉさろんの活動を支えていただいた多数のご来賓が一堂に会し、大阪を代表する歴史的建造物である大阪市中央公会堂で盛大に開催されました。
本シンポジウムでは「都市・大阪の未来をみつめる～アーバンサイエンスが拓く次世代のまちづくり～」と題し、AIやビッグデータのまちづくりへの展開を研究・実践されている東京大学吉村先生の基調講演を基に、都市・大阪のあり様をアーバンサイエンスの視点から見つめ直し、これからの大阪のまちづくりについて考える、熱い議論が繰り広げられました。

**開催概要**

日　時　2022年7月28日（木）15：00～17：15
会　場　大阪市中央公会堂 大集会室（オンライン配信あり）
主　催　CITÉさろん
後　援　大阪市、一般財団法人都市技術センター
参加者　会場244名、オンライン84名、計328名
ープログラムー
◇開会挨拶（15：00）　和田 真治氏（CITÉさろん会長）
◇来賓挨拶（15：10）　寺本 譲氏（大阪市計画調整局長）
角野 幸博氏（関西学院大学建築学部学部長）
角 和夫氏（阪急阪神ホールディングス㈱ 代表取締役会長 グループCEO）
◇基調講演（15：25～16：25）
「都市におけるAIとビッグデータの可能性」
講師：吉村 有司氏（東京大学 先端科学技術研究センター 特任准教授）
◇クロストーク（16：25～17：15）
「大阪の『これから』を考える」
コーディネーター：佐久間 康富氏（和歌山大学 システム工学部 准教授）
◇企画メンバー挨拶：チーム30、ヤング30、総務委員会代表
◇閉会挨拶：白水 靖郎氏（CITÉさろん 副会長）





**開会挨拶**：和田 真治氏（CITÉさろん会長）



主催者を代表して和田会長より開会挨拶を頂きました。
CITÉさろんのこれまでの歩みや現在の活動内容をご紹介頂くとともに、30周年記念事業のコンセプト「紡ぐ」に込めた「30周年の過去を振り返り、将来の活動に紡ぐ」「ワークショップの提言を実際のまちづくり施策に紡ぐ」「CITÉさろんの活動を幹事企業の事業に紡ぐ」との3つの思い、これからのCITÉさろんの発展を祈念する熱いメッセージを頂きました。

**来賓挨拶**：寺本 譲氏（大阪市計画調整局長）



行政の立場からCITÉさろんを支えて来られた大阪市様を代表し、高橋副市長の祝辞を寺本計画調整局長より代読頂きました。
CITÉさろんの多彩な活動を通じた大阪のまちづくりへの貢献、コロナ禍で企業間のコミュニケーションが希薄化する中での異業種交流の場であるCITÉさろんの意義、そして2025年大阪・関西万博の成功、さらなる大阪の成長と魅力的な大阪の実現をめざしてCITÉさろんと協力していきたいとのお言葉を頂きました。

**来賓挨拶**：角野 幸博氏（関西学院大学建築学部学部長）



学識経験者を代表し、現在もCITÉさろんの研究会活動にご協力を頂いている角野先生よりご挨拶を頂きました。
民間企業が自主的に集い活動するCITÉさろんは民都大阪の面目躍如であり、大学の研究者や学生にとっても実際のまちづくりの現場に触れられる貴重な場であること、会社の立場を離れた活動への参画が新たな自己発見、最終的には企業活動に反映され、思いもかけない出会いが新しい活動の芽生えを生むとの貴重なご示唆を頂きました。

**来賓挨拶**：角 和夫氏（阪急阪神ホールディングス㈱　代表取締役会長 グループCEO）



CITÉさろん歴代幹事長・会長を代表し、2002年度に第５代幹事長を務められた角会長よりご挨拶を頂きました。
行政と民間会社がまちづくりについて自由に意見を交わす場としてのCITÉさろんの意義、そしてCITÉさろんでのつながりが角会長が関わられた都市交通施策や都市開発など実際のまちづくりを動かしたご経験を通して感じられた「人との出会い」の大切さについて、貴重なメッセージを頂きました。



## 基調講演「都市におけるAIとビッグデータの可能性」

講師：吉村有司氏（東京大学 先端科学技術研究センター 特任准教授）

東京大学吉村先生による基調講演では、「ウォーカブル」や「都市多様性」、「都市にとってのウェルビーイング」といったキーワードを軸に、吉村先生がスペイン・バルセロナなど世界各都市で実際に関られたプロジェクトのご紹介を通して、都市にとってのビッグデータの使い方を具体的に提示して頂きました。
イントロダクションではバルセロナやMITでのご経歴、「人や車、モノの動きを通して都市の分析をしてきた」先生が実際に取り組まれたプロジェクト「Trash Track：センサーによるトラッキングで都市の“ごみの生態”を分析」「Under World：汚水の分析データを都市のパブリックヘルスに活用」「Traffic Simulation：都市レベルでの交通流分析により都市施策による“生活の質”の改善効果を評価」のご紹介の後、本日のテーマに関連する以下の4つの事例を基にご講演頂きました。



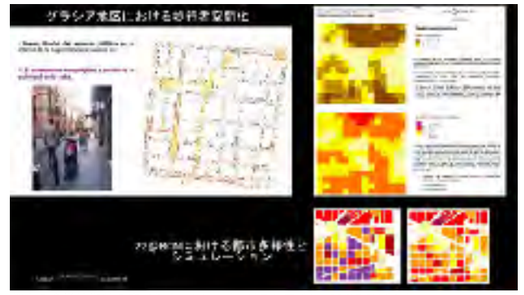



スーパーブロックプロジェクトによるパブリックスペース増加の可視化

**【バルセロナのスーパーブロック（歩行者空間化）】** 歩行者中心のまちづくり、データを用いたまちづくりの先進事例として世界から注目を集めるスーパーブロックプロジェクト。9つのブロックの内側を全て歩行者空間化。パブリックスペース増加、空気汚染減少、騒音レベル低下などの同施策によるインパクトやベネフィットをビッグデータを用いて可視化。グラシア地区でのパイロットプロジェクト、ポブレノウ地区、サンアントニ地区での実証実験が進んでいる。

**【緑視率のマッピング技術と日陰ルート探索アプリの開発】** MIT在籍時にビッグデータとAIを用いた分析手法により都市の緑視率のマッピング技術を開発。この技術を使って市民生活の質を向上する具体的な取り組みとして、ストリートレベルでの日陰の位置情報によるルート探索アプリ「HIKAGE FINDER」を開発、β版をリリースし都市への実装に取り組んでいる。

**【都市多様性の定量化：ジェイン・ジェイコブズをデジタルテクノロジーで読み替える】**
「都市の多様性」の重要性が叫ばれて久しい。しかしその明確な定義や定量分析はなされて来なかったため、我々は「都市の多様性をビッグデータで定量分析する」一連のプロジェクトに取り組んだ。「生物の種の多様性指数」の考え方を都市の多様性に適用することを発想し、街路レベルにおける小売店の「数」と「種類」という2つのパラメータを用いた定量分析手法を開発。バルセロナのグラシア地区や22@BCN地区などの実際のフィールドでその効果を検証。さらに「都市の多様性が向上すると、なにか良いことがあるのか?」というその先の問いに対し、都市の多様性が高いエリアの小売店、飲食店の売り上げをビッグデータ解析し、「都市の多様性が向上すると、そのエリアの売り上げは向上する」との仮説を実証した。この取り組みは「ジェイコブズの理論というものを初めてビッグデータで実証した」と言える。



都市の多様性指数の実証例（バルセロナ・グラシア地区、22@BCN地区）

**【歩行者空間化の手法論：科学的なアプローチ】** 多様な人々が住む都市、非常に成熟した社会においては、歩行者空間化という都市施策による効果（生活の質は上がったのか、市民の幸せやウェルビーイングにつながったのか）をきちんと示していくこと、データを用いて合意を形成していくことの必要性が高まる。我々は歩行者空間化された街路に立地している小売店、飲食店の売り上げ前後比較での比較・分析をスペインの全都市、全街路を対象に実施。オープンストリートマップ中の街路属性情報から必要な情報をマッピングする技術を開発、グリッド単位で歩行者空間化の時系列でのデータ化を行い、これにクレジットカード情報を基にした売り上げデータを重ねてビッグデータ解析を実施、「歩行者空間化すると、そこに立地する小売店・飲食店の売り上げは向上する」との結果を得た。さらにJSTの「個と場の共創的Well-Being」で取り組んでいる「歩行者空間化によって、そこに住んでいる人々は幸せになったのか?」との問題に決着が付けば、いままでの都市の作り方、街の作り方が根本的に変わる可能性がある。
今日はデータを用いた「まちづくり」という観点で、ビッグデータ分析の「まちづくり」への可能性、直感ではないデータを用いた「まちづくり」への可能性についてお話した。後半のディスカッションにつなげていきたい。

《 講師プロフィール 》



**吉村 有司**氏
東京大学 先端科学技術研究センター 特任准教授
愛知県生まれ、建築家。2001年より渡西。ポンペウ・ファブラ大学情報通信工学部博士課程修了（Ph.D. in Computer Science）。バルセロナ現代文化センター、バルセロナ都市生態学庁、カタルーニャ先進交通センター、マサチューセッツ工科大学研究員などを経て2019年より現職。ルーヴル美術館アドバイザー、バルセロナ市役所情報局アドバイザー。

## クロストーク　「大阪の『これから』を考える」

コーディネーター：佐久間 康富氏（和歌山大学 システム工学部 准教授）

### アーバンサイエンスの活用により 大阪のまちや、まちづくりのあり方はどう変わるのか。

2018年度～2021年度にCITÉさろんワークショップの座長を務めて頂いた和歌山大学・佐久間先生のコーディネートの下、基調講演講師の吉村先生、30周年記念事業企画チーム“ヤング30”代表のNTTファシリティーズ・遠藤瞭太氏、阪急電鉄・永田賢司氏が登壇。CITÉさろん会員企業への事前アンケート（「これから」のCITÉさろん・大阪のまちづくり）の結果を踏まえてヤング30が設定した3つのテーマに沿って、大阪の「これから」についてのクロストークを展開頂きました。




**【テーマ１：大阪の暮らしをもっと豊かに！ウェルビーイングの観点で ビッグデータはどう活用できるか？】**

◉遠藤：事前アンケートでは「大阪が好き」な方97.1%、「大阪をお勧めしたい」方が92.5%。テクノロジー活用については、中心に人がいる中で豊かな暮らしや健康的な生活をいかに実現できるかに多くの興味が寄せられた。　◉佐久間先生：大阪、日本でデータ活用を暮らしに活かしていく上での課題は？　◉吉村先生：データ活用を推進する上での一番の課題は「都市への愛着」。アプリを入れさえすればスマートシティになるのではない。97%の人が「大阪が好き」と答えたアンケート結果をみれば、大阪での取り組みは成功するのでは。

◉遠藤：バルセロナのDecidimなどの導入に際して、市民側の理解や知識を高める工夫は？

◉吉村先生：とりあえずやってみる、走りながら考えることが重要。バルセロナではDecidim導入に際し、行政が市民への説明会を丁寧に実施し、デジタルディバイドの解消に取り組んだ背景がある。



**【テーマ２：多様なつながりが不可欠な時代。産官学民の多様な人が つながるためにテクノロジーはどう活かせるか？】**

◉永田：大阪の強み・弱みに関する事前アンケートでは、「人とエリアの個性」というキーワードが強み・弱みに共通する特徴がみられた。まちづくりでは多様なステークホルダーとのつながりが必要だが、そのためにテクノロジーがどう活かせるか？　◉佐久間先生：都市の活力や価値を生み出すには「思いもかけない出会い」が大事。出会いの場のあり方やそのサポートという観点でのテクノロジーや情報技術の活用可能性は？　◉吉村先生：思いがけない出会いを創り出すのはテクノロジーが得意とする所。アンケート結果に見られた「人やエリアの個性」といった大阪の強みは、色々な都市がどう創り出せるかを四苦八苦している点。大阪はそこが既に出来ており、後はテクノロジーを載せていくだけでは？　◉佐久間先生：デジタルツールで得た新たなつながりや気付きを別のレイヤーとしての空間に落とし込んだり、リアルな場でつながったり、デジタルテクノロジーにはコミュニケーションチャンネルを豊かにする可能性がある。　◉永田：テクノロジー活用には「共感」や「共有」といったベースにある所が必要では。ツールを使いながら実際の場に足を運んだり入っていくことも大事。　◉吉村先生：時間と空間をきちんと共有することが基本。「歩く」という人間の基本動作を通して幸せや健康につなげていくという視点も欠かせない。　◉佐久間先生：テクノロジー活用で得たつながりを都市空間に落とし込んでいくためのサジェスチョンがあればお願いしたい。　◉吉村先生：そこには人間の知恵＝イマジネーションと創造力＝クリエイティビティが必要となる。我々建築家や都市プランナーにもそれが求められてくる。



**【テーマ３：大阪のまちづくりのこれから。CITÉさろんの果たす役割やあり方】**

◉吉村先生：「CITÉさろんの果たす役割」について、本日皆さんとお会いして1つアイデアが浮かんだ。CITÉさろんが「データプラットフォーマー」になるというのはどうか。オープンデータ化を大規模に始めるのはハードルが高いが、CITÉさろんにはその素地があるのでは。これだけ魅力的な企業の皆さんが集まり、大阪のことを真剣に、しかも大切な所が「和気あいあいと楽しく」議論されており本当に感銘を受けた。データプラットフォームをまちづくりに活かしていく最初の一歩の役割をこのCITÉさろんが担ってはどうか。「データプラットフォーマー」と名前は違っても、これまでのCITÉさろんの取り組みをベースに、もう少しだけ「データ」に寄った活動をされていくだけのイメージ。

◉佐久間先生：私が携わったワークショップ、そして今回のシンポジウム自体がそうであったように、皆でやり取りしながら企画を進めていくことが、これからの先が見えない時代、正解のないチャレンジへの1つの可能性としてあるのではないかと思う。もう1点、今日は「レイヤーを重ねる」というのが1つのキーワードだったと思うが、CITÉさろんに1つ主体としての役割を果たしていくようなレイヤーを重ねていくということは、可能性としてあると思う。吉村先生のお話にもあったまちへの愛着、都市との関わり方、フェイストゥフェイスの関係や人的ネットワークなどCITÉさろんが30年間重ねて来たものがある中で、データプラットフォーマーあるいは主体としての役割を新しいレイヤーを重ねていくことが、CITÉさろんのこれからの方向性なのではないか。

《 コーディネータープロフィール 》



**佐久間 康富**氏
和歌山大学 システム工学部 准教授
埼玉県生まれ、千葉県・京都府育ち。早稲田大学大学院理工学研究科博士後期課程単位取得退学。㈱環境と造形、早稲田大学教育・総合科学学術院助手、大阪市立大学大学院講師などを経て現職。博士（工学）。共著書に、『無形学へ』（2017、水曜社）、『住み継がれる集落をつくる』（2017、学芸出版社）、『小さな空間から都市をプランニングする』（2019、学芸出版社）ほか。



### 30周年記念事業企画メンバー挨拶

～チーム30代表倉田氏より、企画メンバーの紹介を頂きました。



### 閉会挨拶：白水 靖郎氏（CITÉさろん副会長）



主催者を代表して白水副会長より閉会挨拶を頂きました。
コロナ第7波の中で無事にシンポジウムが開催できたことへの関係者の皆様への謝辞とともに、これからの大阪のまちづくりに向けて各登壇者から共通して示された「人」や「多様性」といったキーワードは、CITÉさろんそのものを表したものであるとのご挨拶で、本シンポジウムを締めて頂きました。

**開催風景**～コロナ禍での安心・安全な運営に万全を期しながら、CITÉさろんメンバー自らの手で企画、運営する素晴らしい会となりました。


ヤング30と協力隊によるミーティング


お揃いの青色Tシャツで準備OK！


交流会でお披露目予定だった未来マップのパネル


これからの、CITÉさろん・大阪のまちの益々の発展に向けて参加メンバー全員でエールを送りました


当日の運営スタッフの皆さん～お疲れ様でした

### 編集後記

◉女性がいない！というリクエストを受けて、自ら飛び込みましたが、記念の場に主体的に関われた充実感と、皆様の大阪への思いやつながりの魅力を感じられた素晴らしいひとときでした。皆様ありがとうございました！
（ヤング30代表：山本）

◉当初は、チーム30（＝ベテラン組）で検討を進めていた企画ですが、記念すべきこの機会は、未来に恋する若い方々を中心に進めた方がベストだと思い、ヤング30を結成して頂きました。終わってみれば最高！お疲れ様でした。
（チーム30代表：倉田）

◉レトルの原稿作成を通して、登壇者の皆さんの言葉の一つ一つから大阪のまち、そして、CITÉさろんへの熱い想いを受け取った気がしています。本シンポジウムが、30年間にわたり諸先輩が積み上げてきたCITÉさろんの魅力を次代に紡ぐ場となることを祈念しています。
（CITÉさろん総務委員長：橋本）

# テーマフォーラム

2022年5月17日(火)15:30～17:30
大阪梅田ツインタワーズサウス 梅田サウスホール

**「ポストコロナの大阪都市圏が進む道を思考する」をテーマに、大阪市計画調整局の寺本局長と吹田市の後藤市長をお招きし、大阪市と郊外中核市の魅力ある関係性について講演頂きました。**

冒頭に、研究活動委員長の水方より、本フォーラムの位置づけと、背景となる圏域研究会の活動について報告しました。
その後、大阪市計画調整局の寺本局長より「活力と魅力ある大阪をめざして」と題して、市内各地で構想、計画されている様々なプロジェクトを軸に講演頂きました。局長は、新たな計画調整局の目標として、持続的で活力あるまちづくり、都市格を備えたまちづくり、基盤が整備されたまちづくり、という３つを掲げられました。その上で、エリア毎の取組として、中之島、御堂筋、なんば、京橋・ＯＢＰ、矢田南部、長原駅前、十三、新今宮、八尾空港西といった市内の多彩なエリアのプロジェクトを多数ご紹介、大阪市全体の高いポテンシャルを感じることができました。更に、デジタルサイネージを含む景観誘導やエリアマネジメント活動の支援など、様々な環境改善の取組を説明されました。最後に、高速道路や鉄道等の新設計画、ＭａａＳや３Ｄ都市モデルの取組など、未来に向けた新たなチャレンジについても示されました。
次に、吹田市の後藤市長より「都市自治体の完結性と連続性」と題して、周辺地域と積極的な連携を図る吹田市の取組について、幅広く講演頂きました。吹田市は2020年に中核都市へ移行した京阪神を代表する郊外自治体であり、現在も人口増加が進む、暮らしやすく働きやすい地域となっています。拠点開発として、「健都(けんと)」、吹田エキスポシティ、吹田ＳＳＴ、吹田サッカースタジアムなど、多くの魅力的な施設を誘致、開発してきました。それだけに留まらず、都市計画道路整備や歩道の拡幅、公園リニューアル、市施行の区画整理事業実施等、地道で本質的なインフラ整備も並行して継続しており、将来に向けて好循環を止めない、というポリシーが貫かれています。加えて、街で一番長い時間を過ごしている生活者、女性目線で行われる支援策が手厚く、その結果、首都圏からの転勤族が積極的に選ぶ街となっているとのこと。
最後に、西宮市のＮ、尼崎市のＡ、豊中市のＴ、吹田市のＳを並べたＮＡＴＳという地域連携の取組を紹介されました。これは、後藤市長が提唱し、周辺の市長を巻き込んで実現したもので、北摂地域の価値を高めるブランディングの手法として高く評価されています。吹田市を中心としたＮＡＴＳと大阪市とがうまく連携して、新たな京阪神圏域の核となることが期待されます。

(研究活動委員会:水方)


寺本大阪市計画調整局長の講演


後藤吹田市長の講演


真剣に聞き入る会場参加者の様子


恒例の大坂締め!

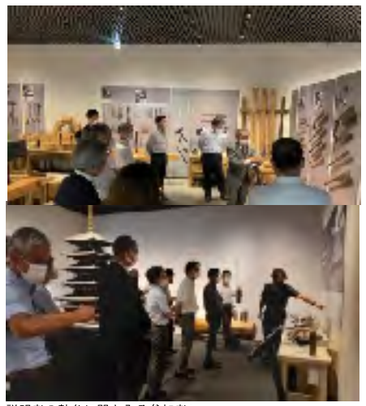
# 自主活動プログラム

2022年7月15日(金)15:00～16:30
竹中大工道具館

**「『木』を使う時代を学ぶ」をテーマに、日本唯一の大工道具のミュージアムである竹中大工道具館を視察しました。**

昨今、省CO2や資源循環の観点から積極的な導入が検討されている木材。昨年は建設業界の木造導入の最新動向を竹中工務店の方に説明頂きました。今年は木材の本質を学ぶべく、神戸にある日本唯一の大工道具の展示施設「竹中大工道具館」を視察しました。
展示は、
1) 歴史の旅へ(日本の大工道具史)
2) 棟梁に学ぶ(施工プロセス)
3) 道具と手仕事(大工道具の仕組)
4) 世界を巡る(中国と欧州の大工道具)
5) 和の伝統美(茶室等展示)
6) 名工の輝き(名工の大工道具)
7) 木を生かす(木の性質)
の７つのコーナーで構成されています。参加者を2班に分けて、専属の学芸員に付きっ切りで案内頂くことで、深く刺激的な体験ができました。
日本は加工し易い多様な木材資源に恵まれたため、欧州や中国に比べて、繊細で美しいデザインの木造建築が多いこと、そのために大工道具や棟梁制度が深く発達したことを学びました。また、木の様々な素材特性を十分に活用する習慣が社会全体に浸透しており、木材を通じて自然との共生思想が定着したことも理解できました。今後、都市の主要建物の一部が再び木造となることが期待されますが、その際に、木造を文化レベルでも再生できるかどうか問われそうです。

(研究活動委員会:水方)


説明者の熱弁に聞き入る参加者!

# 圏域研究会 第1回圏域研究セミナー

2022年8月1日(月)15:00～17:30
伊藤祐クリエイトセンター(リアル&オンライン開催)

**筑波大学の渡和由先生をお招きしてサードプレイスについてご講演頂き、意見交換を行いました。**

**「地域資源と共にサードプレイスをつくる手法」**
渡先生独自の分類で色分けされたキーワードと150枚を超えるスライドを用いて、サードプレイスの解釈、条件、課題、展望のお話をお聞きし、海外を含めた事例研究の内容、そして筑波での実践についてご説明頂きました。
□地域資源と共にサードプレイスをつくるには
①住(ファーストプレイス)休む場、
②職(セカンドプレイス)働く場、
③遊(サードプレイス)遊ぶ場
を複合し、リラクゼーションとリクリエイションを促すことが特に重要。
□サードプレイスの条件とは「元気が出る、遊びの場」「行きつけの場」「家と職場以外の場(第3の自分が居る場)」であり、全ての生活環境で、人の創造的な能力を高めることが可能となる。
□サードプレイスのプレイスメイキングの要点として、座り場、眺め場、囲い場、陰り場、食場、灯り場、話し場(離し場)、巡り場(全て渡先生の造語)の８つの場要素があり、それぞれの配置計画が居場所づくりのポイント。
□日常の生活環境の中に上記要素を加えてプレイスメイキングを行う事で、日常の風景が楽しく芸術的になる。

(研究活動委員会:鬼澤)


わかりやすい渡先生の講演


白熱の質疑応答

## 主なイベント・スケジュール

### ◆圏域研究会 先進事例視察会・第2回圏域研究セミナー
・日　時:2022年8月31日(水)
(１) 先進事例視察／13:00～15:00
① NIPPONIAの原点「集落丸山【日本遺産】」
② 城下町散策、お土産購入など
③ 篠山城下町ホテルNIPPONIA
(２)第2回圏域研究セミナー／15:15～16:45(意見交換含む)
■講師:株式会社NOTE 代表取締役 藤原 岳史 氏
■演題:「なつかしくて、あたらしい、日本の暮らしをつくる」意義
■会場:ウイズささやま(丹波篠山市民センター)

### ◆圏域研究会 U40ワークショップ
【第１回】7月21日(木)15:00～17:30
会場:コミュニティフードホール 大阪・日本橋
【第２回】9月7日(水)15:00～17:30
会場:β本町橋
【第３回】10月14日(金)15:00～17:30

### ◆圏域研究会 第3回圏域研究セミナー
・日　時:2022年9月13日(火)15:30～17:30
・テーマ:「ポストコロナ時代の魅力ある居住地を考える」
・講　師:青木 嵩 先生(大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 助教)
・会場:大阪商工信用金庫 2階「商工信金ホール」

### ◆幹事研修会
・日　時:2022年9月22日(木)～23日(金)
・場　所:福井県福井市 他
・研修会場:「ハピリンホール」

### ◆第1回トークセッション
・日　時:2022年10月3日(月)17:00～18:30
・講　師:岡井 有佳 先生(立命館大学理工学部教授 博士(工学))
・会　場:伊藤佑クリエイトセンター大阪本町 5階B1中会議室

### ◆第1回さろんトーク
・日　時:2022年10月21日(金)
・講　師:奥田 晃久 氏(近畿地方整備局 企画部長)
・会　場:北浜フォーラム

### ◆第2回 大阪都市格研究会
・日　時:2022年10月27日(木)
・テーマ:「都市格とスポーツの新たな可能性
～バーチャル空間とリアル空間の融合を考える～」
・講　師:渋谷 順 氏(株式会社スマートバリュー 取締役兼代表執行役社長)
和田 真治 氏(南海電鉄株式会社 執行役員／
イノベーション創造室副室長 eスポーツ事業部長)
・座　長:角野幸博教授(関西学院大学建築学部 学部長)
・会　場:大阪公立大学 I－siteなんば

※今後のコロナの感染状況により、開催方法等の変更が生じることがあります。

# 大阪都市格研究会

2022年3月11日(金)15:00～17:30
ヨドコウ桜スタジアム

**令和3年度-4年度の第5期大阪都市格研究会の**
**第1回研究会「スポーツが育む都市格への期待」が**
**開催されましたのでご報告いたします。**

第5期を迎えた大阪都市格研究会では、第1回研究会を令和4年3月11日に開催しました。第5期のテーマとして「スポーツとまちの交接点が大阪都市格に付加する新たな価値の体験的研究」を掲げ、座長は関西学院大学建築学部学部長 角野幸博先生にお願いしています。大阪の都市格を考えるとき、歴史と伝統文化の厚みに加えて、スポーツの歴史文化も重要な要素となります。スポーツ産業が集積しスポーツの聖地が点在する関西において、大阪都市格とスポーツをとらえ直そうと研究中です。
第1回研究会では「都市格とスポーツの新たな可能性」をテーマに、長居公園内のヨドコウ桜スタジアムを訪問し、(一社)セレッソ大阪スポーツクラブ 高見恒祐氏より施設の説明をいただきました。講演１では、角野座長より「スポーツが育む都市格への期待」について、スポーツ門前町型都市空間やまちなかスポーツ型都市空間の可能性についての考察を提案いただきました。
講演２では、「シビックプライド・にぎわい・イノベーションとスポーツ」をテーマに大阪成蹊大学経営学部教授　植田真司先生よりご講演いただきました。植田先生は大阪商工会議所が推進するプラットフォーム「スポーツハブKANSAI」のスーパーバイザーを務めておられます。講演では、スポーツの多岐にわたる役割や、大阪のスポーツ用品産業の歴史、スポーツ関連産業の展望について解説いただき、これからの大阪の在り方として「スポーツとSDGs先進都市」が提案され、スポーツ・運動がしたくなる都市づくり(例 ウォーカブル、公園、駐車場等の施設活用やランニングステーション等の配置)を通じて、人々をより賢い選択へ導く(nudge)行動変容の可能性について提案がありました。また、スポーツや心身の健康を考えることをきっかけに、対話が生まれる都市の在り方も提案がありました。

(分科会活動委員会)



スポーツと都市をめぐる白熱の討議



ヨドコウ桜スタジアム視察風景

## 2022-2023ワークショップ

### 3つのワークショップの活動をはじめます

これまでのWS活動の成果を受継ぎつつ、座長の3人の先生方にご指導をいただききながら、
新たなメンバーでWS活動を行っていきます。

ワークショップ1

#### 価値変化に伴う移動の本質を再考する



座長：吉田 長裕氏
大阪公立大学大学院
工学研究科准教授

新型コロナ感染症はライフスタイル、働き方、移動のあり方等様々な価値観の前提条件再考の機会となった。都市交通も移動の道具ではCASE、移動サービスについてはMaaSという新しい考え方が出ている。まずは移動の本質を捉え直し、既存の前提条件でない新しい移動の価値を見つけ、移動のあり方の変化を探るため、関西をフィールドに移動の本質の議論からスタートして今後の展開に繋げていきたい。

ワークショップ2

#### エキサイティング・シティ・オオサカをどう実現するか



座長：山口 敬太氏
京都大学
工学部地球環境学堂
兼工学研究科准教授

大阪の各エリアには都市のワクワク体験を生みだす固有の潜在的資源が眠っており、それら資源をオープン化して活用することは、まちづくりの重要な課題である。未来のエキサイティング・シティ・オオサカを実現するために、必要なデジタルメディアや先端技術をまちづくりに応用し、実際の都市空間にメディア空間も取り込んで活性化するシティ・マネジメントのあり方を探りたい。

ワークショップ3

#### 都市部の再生可能エネルギー源を探せ！循環型ゼロカーボンCityへの道



座長：鍋島 美奈子氏
大阪公立大学大学院
工学研究科教授

大阪のような都市部において循環型ゼロカーボンCityを目指すには、太陽光発電以外に都心部で利用可能な再生可能エネルギー(電気・熱)を探求すべきではないか。厨芥ごみを例にして物質収支やエネルギー収支の分析、普及に向けてのテクニカル課題・法的課題等の調査を行い、都市部のゼロカーボンCityのあり方を模索したい。



# 2020-2021年度ワークショップ報告会(大阪市)

2022年8月2日(火)10:00～11:30
大阪市役所 大応接室

**2020年度から2021年度の2か年にわたる３つのワークショップ活動の成果を、**
**座長の3人の先生方に参加いただき、大阪市副市長ほか計画調整局幹部に報告しました。**
**各WSとも、時代を先取りする具体的なWS活動に高い評価を受けました。**

〈出席者〉
【大阪市】高橋副市長、寺本計画調整局長、花澤理事、山野部長、上溝部長、西江部長、木下課長、正者課長代理、松本係長(WS2)、中山課長代理(WS3)
【CITÉさろん】和田会長、田中副会長、奥野分科会活動委員長、谷副委員長
【WS座長】佐久間康富和歌山大学准教授(WS2)、松村嘉久阪南大学教授(WS3)
【WS発表者】WS1：島田(飛島建設)、藤原(アーキエムズ)、堀内(日本設計)、WS2：赤井(NTTファシリティーズ)、出樋(三井不動産)、中山(南海電気鉄道)、伏木(竹中工務店)、矢野(阪急電鉄)、WS3：川江(竹中工務店)、五島(大林組)、森田(中央復建コンサルタンツ)
〈報告概要〉
冒頭、高橋副市長より、毎回このWS報告会を楽しみにしており、今回はコロナ禍でのモビリティ、都市空間等へのタイムリーな議論や提案への期待感が表明されました。その後担当メンバーによるWS報告の開始となりました。
【WS1】テーマ「withコロナ,afterコロナのモビリティを考える」
コロナ禍で「人の移動」「集合」が制限され、都市構造は一極集中から多極混在型へと変化し、通勤の分散化や近距離通勤等に対応する多様なモビリティ動線の都市部や郊外での整備が必要。それを中之島・住吉地区をモデル地区として検討し、既存空間を最大限活用して移動目的を市内全域に分散することで大阪市全体の価値を高める提案をする。
【WS2】テーマ「リノベーションの観点から考えるエリアのあり方」
まちの活性化には活動を推進する地域コミュニティの存在と持続できる担い手や場所が必要。コミュニティ形成のきかっけを自治体から創出し継続する支援を通して活性化へと繋げる。佐久間座長から、リノベーションは担い手の問題であり「地域おこし協力隊」や「シテさろん」も担い手となりうるが、スモールビジネスとしても成立つ手法とまちづくりへのプラットフォームの整備が重要とのコメントがあった。
【WS3】テーマ「コロナ禍を乗り越えて大阪の都市空間の再編を考える」
交通結節点機能を有する主要駅周辺エリアの開発が進まない要因として、区境界に位置する主要駅が各区まちづくりビジョンに含まれないことが挙げられる。区境駅周辺エリアのまちづくりには行政の介在が求められる。松村座長から、環状線主要駅では区境駅が多く、市の介在が必要であり、協議会等のプラットフォームの整備が必要。また街独自の地場情報を発信するする必要があり、ミナミ地域活性化に資する「道頓堀」の事例に期待したいとのコメントがあった。
〈講評〉
各WSからの報告後、高橋副市長はじめ、報告に対する講評を受けました。
副市長からは、区境駅は全く報告通りで新今宮駅は典型的。同駅の南北の両区には1枚の図面にまちづくり構想を示すよう指示した。また、コロナ禍によりオフィスの郊外シフトが進むならば大阪都心部はどのような機能更新や空間リノベーションの展開をすべきかを各局に指示する。森ノ宮の空き家対策や中之島更新は計画調整局担当であり検討の指示がなされた。寺本局長からは、意欲的で具体的提案を評価された。特に、あいだを繋ぐ組織が重要との事は全く同感で、行政も企業もコンプライアンス等により柔軟性を発揮し難い今の状況をどうすべきかも考えたい。花澤理事から、地元ならではのまちづくり情報の発信について成功事例をつくってほしいとのコメントを頂いた。

(分科会活動委員会)



WS終了後に高橋副市長を囲んで



高橋副市長よりコメントを頂く



寺本局長よりコメントを頂く

# 国内視察研修会

2022年3月28日(月)
和歌山市

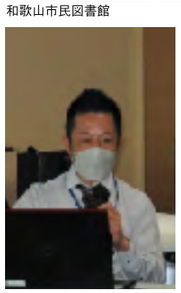
**紀州藩として栄えた和歌山市。**
**20世紀末にはかつての賑わいを失いました。**
**まちなか再生に官民連携で取り組む和歌山の挑戦！**

徳川御三家のひとつ紀州藩として栄え、全国有数の大都市であった和歌山市。1980年代から中心市街地の衰退が進み、かつての賑わいが失われてきましたが、近年まちなか再生の動きがみられることから、視察に伺いました。
最初の訪問先は、2020年6月に開業した駅直結型の複合施設『キーノ和歌山』。カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社が運営する和歌山市民図書館は、知性と感性を醸成する場として従来の図書館のイメージを刷新。地場食材等を集めたマーケットや和歌山エリア唯一の4つ星ホテルなど、魅力的な施設が和歌山の人の流れを変えました。
続いて訪れたのは、2020年7月に本町公園内にオープンした飲食店『the public』。都市再生法人紀州まちづくり舎が、パークPFIにより公園及び地下駐車場を一体的に管理運営されています。吉川代表には、取り組まれてきた様々なリノベーションまちづくりについて、熱く語って頂きました。
『the public』でのランチの後、和歌山城ホールにて、和歌山市都市再生課中野様より、小中学校の統合、大学誘致、公共施設再編、再開発、リノベーションなどの「和歌山市のまちなか再生プロジェクト」の全容についてご説明頂きました。
国内最大12団体の都市再生推進法人を擁する和歌山市は、2014年から「リノベーションスクール@和歌山」に取り組まれ、遊休不動産のリノベーションもまちなか再生の起爆剤のひとつになっています。これらの官民連携まちづくりを支えているのは、本研修でご説明頂いた方々をはじめとする『官民の人財』であると実感しました。

（総務委員会：白水）


和歌山市民図書館


駅直結型複合施設「キーノ和歌山」


和歌山市 都市建設局 中野班長


本町公園内「the public」

# 第1回 親睦ゴルフコンペ

2022年4月17日(日)
三田レークサイドカントリークラブ

**アフターコロナを感じさせられた**
**束の間のゴルフコンペ！**
**大自然の中でリアルな交流を満喫！！**

2022年4月17日(日)三田レークサイドカントリークラブにおいて、2022年度第一回CITÉさろん親睦ゴルフコンペを開催いたしました。
今回コンペの幹事として、初めて携わらせて頂きましたが、コンペ場所の設定や日程調整など全てを“ゴルフマスターであるNTT都市開発㈱大堀様”に整えて頂いた事から、当日の進行やプレー終了後の懇親会の仕切が私に与えられた初ミッションでした！
本コースは、大自然を生かした丘陵コースで、全27ホール（北摂・東播・清水コース）あることから、清水コース→北摂コース組と、東播コース→清水コース組に分かれ、計6組総勢23名が集い、ゴルフ日和の中、和田会長の始球式を皮切に、時折聞こえる鶯の鳴き声を聞きながら各々がゴルフを堪能するだけでは無く、会員間交流を図る事ができ、とても有意義な一日となりました。
プレー後の懇親会は、コロナ禍(4月は感染者数は大幅に減っていた時期)の鬱憤を晴らすかのように非常に盛り上がりました。
総務委員会では、今後ヤング30チームと合同コンペ企画など、より多くの会員様が世代を超えた交流の場と捉えて頂けるような企画を用意していきますので、皆様の参加をどしどしお待ちしております。

（総務委員会：安田）


和田会長の始球式


表賞式の様子


参加者全員集合



## ■■ 新入会企業のご紹介 ■■

皆さまと様々な活動や交流を通じて、
大阪のまちづくりに寄与していきたい

### 株式会社関電工



今回新規入会させていただきました関電工です。
弊社は、建築設備を始め情報通信設備、電力設備の分野において、独自の技術とノウハウ、工法を駆使し、電気工事、情報通信工事などの企画から設計、施工、メンテナンス及びその後のリニューアルまで、一貫したエンジニアリング事業を展開しております。近年では、これまで培ってまいりました技術・ノウハウを活用し、太陽光や風力などの再生可能エネルギー発電事業の展開や、鉄道・水道など社会インフラ分野への事業領域の拡大に努めるとともに、ロボットやIoTを活用した 技術開発にも取り組んでおります。また1959年に設置しました関西支店ですが、今年で63年目になります。関西エリアでの工事実績についても着実に積み上げてきており、最近では、うめきた2期など大阪のまちづくりに対して電気工事を通じて携わさせていただいております。CITÉさろんの皆さまと様々な活動や交流を通じて、大阪のまちづくりに少しでも寄与していきたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。



株式会社関電工
西日本営業本部 営業総括部長
**新藤 満拡 氏**

持続可能な社会の実現のために、
進化と挑戦を続けてまいります。

### 三和電気土木工事株式会社



弊社は大阪本社の企業として、1928年に設立し、まもなく100年を迎えます。当初から携わっている電力分野を軸に、医療、情報通信、環境、航空分野とあらゆる分野において電気設備工事をトータルマネジメントしています。単に工事施工を行うだけではなく、施設の設計段階から参画し、施工条件に応じた設備や工法の提案、きめ細やかなコンサルティング、施工後の設備保守・管理にいたるまでフルサポートを行っています。
また、近年は、脱炭素社会の実現に向けて、再生エネルギー分野に注力しています。お客様の施設を建設するだけでなく、自社で高知市にて太陽光発電所を開発・運営、岡山県笠岡市にバイオガス発電所を建設中です。
官民連携の場であるCITÉさろんでは、皆様と、DXを活用したコミュニケーションを行い。微力ながら、大阪のまちづくりと地域活性化に貢献します。ご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



三和電気土木工事株式会社
大阪本店　営業部長
**山田 健介 氏**

地球と人のための技術をこれからも
サステナブルで安全・安心な社会の実現に貢献します

### 日立造船株式会社



今年(2022年4月)から、入会させて頂きました日立造船です。
弊社は、企業理念「私達は、技術と誠意で社会に役立つ価値を創造し、豊かな未来に貢献します。」を掲げ、創業者のE.Hハンターの精神を受け継ぎ「・果敢に挑戦する・真摯に対話する　・広く学び、深く考える」を行動規範とする会社です。
現在の事業・製品内容は、「環境・プラント」、「脱炭素」、「機械」、「インフラ・防災」に関連する機器やプラントの製造・販売・サービス及び運営事業を通して、エネルギー・水・防災（安全・安心）で社会に貢献しています。近年は、環境分野への社会的関心の高まりを受けて、サステナブル社会の実現に向けた資源循環型事業にも注力しています。
CITÉさろんに参加されている企業の皆様と大阪発のサステナブル社会（仮称「SDGs大阪モデル」）を実現し、未来の大阪を創造していきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。



日立造船株式会社
環境事業本部
エンジニアリングビジネスユニット長
理事
**佐藤 英夫 氏**

## ■■ 新役員就任のご挨拶 ■■

### 《総務委員会 副会長》



**白水 靖郎 氏**
中央復建コンサルタンツ(株)
常務取締役 経営企画本部長

Beyondコロナ社会、あるいはポストアーバン社会において、人々の価値観やライフススタイルが大きく変わりつつあり、都市の役割についても変わってくると思います。また、SDGsが目指す「誰一人取り残さない」という思想、不安定な国際情勢などを踏まえると、まちづくりの前提や思想を、改めてしっかり考えなければ…、と思っています。一方で、大阪にはこれまで積み重ねてきた歴史・文化があります。大阪が誇る食文化、水都大阪としての水辺文化、大阪特有の路面文化…。大阪のGenius loci（土地の記憶）を活かしたふくよかなまちづくりは、CITÉさろんが大事にしてきたことで、これからもその精神を受け継いで参ります。これらを、Issue Drivenではなく Speculative Designで！。目の前の課題だけに振り回されるのではなく、歴史を紡ぎ、未来を拓く大阪らしいまちづくりを、CITÉさろんの皆様と一緒に頑張ります。

### 《総務委員会委員長》



**橋本 英樹 氏**
株式会社大林組
大阪本店 建築事業部
プロジェクト推進第一部長

30代前半にワークショップに参加させて頂いた後、CITÉさろんの活動に参加する機会があまりありませんでしたが、前任者から幹事を引継ぎ、2018年度より再び参加させて頂いています。多少昔のCITÉさろんのことを存じ上げていたこともあり、30周年記念事業の企画メンバー「Team30」に参加、そのような巡り合わせから、30周年本番の年に同事業を所管する総務委員会の委員長を拝命することとなりました。20年前とは参加企業やメンバーも様変わりし、活動内容も非常に充実しているように思いますが、今も昔も変わらないことは、参加されている皆さんが少しでもCITÉさろんという場を有意義なものにしよう、大阪のまちが元気になって欲しい、そういった思いを持たれていることだと感じています。皆さんの思いを総務委員会として受け止めながら、これからのCITÉさろんの益々の発展に貢献していければと思っています。

### 《研究活動委員会委員長》



**水方 秀也 氏**
株式会社竹中工務店
開発計画本部長（西日本担当）

三井不動産の西元さんの後を受けて2022年度から研究活動委員長に就任する水方でございます。建設会社の㈱竹中工務店で西日本の開発計画本部長をしてまして、普段は都市開発プロジェクトの企画やコーディネートを担当しています。京都大学の建築学科を1992年に卒業して以来、ほぼ大阪で仕事してます。大阪は好きですが、上司の岸田と違って、東京も好きです。お酒は苦手ですが、盛り場は大好きです。複合開発であいう自然な賑わいを再現することを目指しています。元来現場に飛び込むのが好きなので、covid-19禍は中々息苦しく、CITÉさろんは貴重な活動機会として活用させて頂いてます。副会長のKANSOテクノス上田さん、副委員長の三菱地所設計鬼澤さんとうまく連携しながら、楽しい活動を益々盛り上げたいと思いますので、皆さんよろしくお願いします。